

A study of the ideal method for a practical use of ICT(Information and communication technology) on physical education

1K09B007-4 有馬 竜平

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 誉田 雅彰先生

【序章】

現代の社会は情報化社会と呼ばれており、社会に出るにあたり ICT 機器を使いこなす能力が必要不可欠となっている。こうしたことから教育の中に ICT を教材として使用し、幼い頃から ICT に触れることで社会に求められる能力を身につける必要があるのである。また同時に ICT を教材として使用することにより生徒達の勉強に対する意欲などを上げられることがわかってきており、ICT 活用のさらなる可能性を見いだすことができるのである。本研究は体育授業の中で ICT 活用のあり方、体育の教育目標や授業場面などから考察していくこととした。

【第1章】

日本は凄まじいスピードで ICT の発展をして、世界最高水準の ICT 利用環境整備を整えることができたが未だに教育などの分野では格差があり、課題が多く残っていた。しかし ICT の重要性は高く今後も発展していくことが予想される。諸外国に置いても ICT 教育の重要性が確認されており、シンガポール、韓国、イギリスなどの ICT 教育についても本論文で触れた。諸外国の例、特にシンガポールの例などは世界でもトップクラスの例であり、日本とは国土の広さなどからも日本では実現が難しい物もあったが、諸外国の ICT 教育を参考にすることにより、日本の ICT 教育の課題や、問題点などが見えてきた。

【第2章】

第2章では体育の目標ごとに使用されている事例を挙げることで ICT 活用の有効性を確認した。体育の ICT 活用例は他の教科に比べて多くはなかったが、活用している事例を見るとどれも通常に行うよりも ICT 教材を使用することでより効果が得られたという意見がほとんどであった。これは行った教員の主観的な意見になってしまうがこの情報から考えると ICT 活用の効果は明確に確認することができた。

【第3章】

第3章は私が考える ICT 活用方法を提案することと

した。初めは体育理論での ICT 活用を提案した。体育理論は体育の中でも重要な授業であるにも関わらず、雨降り体育と言われていたように授業が重要視されていなかったのである。その体育理論に ICT を活用することによって生徒もわかりやすく、教員も導入しやすい授業展開を提案した。その他はコミュニケーション場面を増やす ICT 活用と、教員の授業マネジメントにおける ICT 活用を提案した。コミュニケーション場面を増やす ICT 活用は第2章でも述べた現在も実際に行われている ICT 活用からも作ることができた。教員のマネジメントは実際に実現するには更なる学校の ICT インフラ整備が必要となる提案である。しかしこれらを実現することにより従来よりも教員の負担は減り、その他のことに時間を作ることができるようになるのである。第3章で述べる提案は日本全体での実現はまだ難しいものだが ICT 教育の今後の発展を考えると近い将来、実現も難しくはないと考えている。

【結章】

本研究を通して ICT の可能性を十分に知ることができた。情報化社会の現代で ICT に触れておくことは必要なことであるし、教育で、本研究では体育の中で ICT を活用することで得られるメリットは多く存在するのである。しかし私は今回の研究を通して特にメリットよりもデメリットの点について考えさせられた。メリットばかりに目がいきがちであるが実際に現在教員の ICT 活用の能力があまり高くなくうまく活用できている教員は多くない。この現状は生徒に対して ICT を活用することによって逆にマイナスを与えてしまう可能性がある。この現状を解決するためにはより多くの ICT 活用の授業映像や、活用状況をネット上で共有することで他の教員とディスカッションなどを行っていくことが効果的であると私は考えている。この ICT 活用の正しい活用方法が今後の課題になる。